

# 屋久島の陸産貝類

東 正 雄

Masao Azuma : Land Molluscs of Yakushima,  
the South-Western Part of Kyusyu

1953年3月26日から4月6日迄関西学院大学生物学教室の前木孝道氏と屋久島の生物学的調査をなした。主たる調査地点は、種子島西表、屋久島安房、小杉谷(700m) 尾間(オノアイダ)、麦生(ムギウ)等である。種の査定は黒田徳米先生の御懇篤なる御教えをうけた。記して深く感謝の意を表します。

## 屋久島産陸産貝類目録

1. *Japonia gouldi* Kobelt 1902 ケハダヤマトガイ  
採集地(尾間)
2. *Cyclophorus herklotsi* v. Martens 1861  
ヤマタニシ
3. *Spirostoma japonicum nakadai* (Pilsbry) 1901  
ヒメヤマグルマ 横式産地は種子島、西表、安房、小杉谷、尾間、麦生等にて採集
4. *Nakadaella micron* (Pilsbry) 1900 ミジンヤマタニシ(小杉谷)
5. *Diplommatina tanegashimae* Pilsbry 1901  
タネガシマコマガイ
6. *D. yakushimae* Pilsbry 1901 ヤクシマコマガイ
7. *Pupinella*(*Pupinopsis*)*rufa tanegashimae* Pilsbry  
1901 タネガシマアズキガイ
8. *P. (P.) funatoi* Pilsbry 1901 フナトウアズキガイ
9. *Chamalyscaeus satsumanus tanegashimae*  
(Pilsbry) 1902 タネガシマムシオイ
10. *C. vincetus* (Pilsbry) 1902 クビマキムシオイ  
(西表)
11. *Ena* (*Coccolerma*) *nesiotica* Pilsbry et Hirase  
1909 チャイロキセルモドキ (屋久島尾間)
12. *Zaptyx* (*Hemizaptyx*) *pinto* (Pilsbry) 1901  
ピントノミギセル
13. *Z. ptychocyra* (Pilsbry) 1901 ハラプトノミギセル (安房、尾間、麦生)
14. *Z. ptychocyra yakushimae* (Pilsbry) 1901  
ヤクシマハラプトノミギセル (小杉谷)
15. *Z. caloptyx* (Pilsbry) 1902 イトカケノミギセル  
(安房、小杉谷)
16. *Z. pintoagna* (Pilsbry) 1902 ヌリツヤノミギセル  
(安房、尾間、麦生)
17. *Z. (Stereozaptyx) entospira* (Pilsbry) 1901  
ウチマキノミギセル (西表)
18. *Megalophaedusa* (*Breviphaedusa*) *stereoma*  
(Pilsbry) 1901. ハラプトギセル (小杉谷)
19. *M. (B.) hexaptyx* (Pilsbry) 1902 オオハラプトギセル (安房、尾間)
20. *M. (B.) jacobiana* (Pilsbry) 1902 ヤコブギセル  
(西表、安房、小杉谷、尾間、麦生)
21. *Reinia* (*Proreinia*) *eastlakeana miyanouraensis*  
Kuroda (MS) ミヤノウラコギル (尾間)
22. *Allopeas clavulinum kyotoense*(Pilsbry et Hirase)  
1904 オカチヨウジガイ
23. *Punctum elachistum* (Pilsbry et Hirase) 1904  
カトウナタネ (小杉谷)
24. *Videna gouldiana*(Pilsbry)1901 タカカサマイマイ  
(安房、小杉谷、尾間、麦生)
25. *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry) 1902  
ヤクシマヒメベツコウ
26. *Parasitala osumiensis* Thiele 1931  
ヤクシマシタラガイ
27. *Ceratochlamys hiraseana* (Pilsbry) 1901  
コシダカヒメベツコウ (小杉谷、尾間)
28. *Parakaliella yakushimae* Azuma n. sp.  
ヤクシマキビガイ 横式産地: 小杉谷、  
1-III-1953, 採集
29. *Yamatochlamys lampra* (Pilsbry et Hirase)  
1904 オオクラヒメベツコウ (小杉谷)
30. *Y. tanegashimae* (Pilsbry) 1901  
タネガシマヒメベツコウ (小杉谷)
31. *Pseudhelicarion perfragilis sakui* Hirase 1908  
ヤクシマベツコウ (安房、小杉谷、尾間)
32. *Chloritis* (*Trichochloritis*) *albolabris* (Pilsbry et Hirase) 1902 クチジロビロウドマイマイ  
(小杉谷)
33. *Aegista* (*Plectotropis*) *conophala* (P. et H.)  
1903 ヘソカドケマイマイ (西表)
34. *Aegista* (*P.*) *itoi* Kuroda (MS.)  
イトウケマイマイ (小杉谷)
35. *Trishoplita hachijoensis* (Pilsbry) 1902  
ツバキカドマイマイ (安房)
36. *Bradybaena similaris* (Férussac) 1822  
オナジマイマイ (p. 119 へ)

## 新 著 紹 介

大阪市立大学教授 理学博士 三木 茂著

メタセコイア (生ける化石植物)

B5版 164頁 写真14 遺体図 135

定 価 450円 送料50円 昭和28年7月10日発行

発行所 京都市上京区烏丸出水西入

日本礦物趣味の会 (振替京都16411)

著者が植物遺体の研究に関する世界的権威者であることは有名であり、殊にメタセコイアに関する研究により昭和25年度朝日文化賞及び京都文化院賞を受けたことは、まだ吾々の記憶に新たなことである。その著者が今回著者の多年の経験と貴い研究の成果を極く分り易く示したのが本書である。古生物学的な地味な研究は何か吾々の生活と遠く離れたものを感じしめるが本書はそれらの欠点をよく克服して、古生物即ち化石及び遺体(半化石)の研究がどれほど吾々の生活と結びついているかをメタセコイアを中心として明快に書かれている。しかも其処に高度の学術的な真面目な興味のある図や記載が満載されていることは著者の数10年来の身をもつて体験した数々の研究成果によるもので、これも従来の解説書とは全く趣を異にしている所である。

この中で取扱われている植物遺体は実に 77科、164属 283種に及びその内今日絶滅したものは1科、20属、80種に達している。しかも図は135葉で300種以上を画き、その殆んど著者の原図によることも一層本書が権威あるものとしている。

本書は植物分類、生態、形態に興味のある人々は勿論、今後遺体を研究する人々、それに伴って石炭関係の人々には必読の良書と思われる。

なお現在苗木として盛んに増殖されているメタセコイア(メタセコイア保存会、大阪市立大学理工学部内)は漸く一般に販売される程に増殖され、その生長の早いが為に種々な用途、殊にバルブ資源としての将来についても本書は見逃せぬ内容を収めている。

(大阪市立大学理工学部 高田英夫)

体細胞染色体は比較的小形で染色体の分析には可成りの困難が伴った。即ち最大の染色体はヒヨドリバナ5倍体の第1および第2染色体で全長 6.6 $\mu$ 、最小の染色体は第49および第50染色体で全長僅かに 1.6 $\mu$ にすぎない。最大染色体を1とするときの最小染色体の長さはサワヒヨドリ0.52、サケバヒヨドリ0.60、ヒヨドリバナ(3x)0.38、フジバカマ0.47、ヒヨドリバナ(5x)0.24であつて、5倍種を除き染色体の長さの差が少ない。分析した171の染色体において着糸点がmedianのものには全く認められず subterminal のもの 75(43.9%)、submedian のもの 96(56.1%)である。薬科植物の他の多くの属に比べて subterminal の着糸点をもつた染色体が著しく多いことは注目すべきことで、本属が比較的起原の新しいものであることを示すものと思われる。核型から見てサケバヒヨドリは異質3倍体、フジバカマは同質4倍体であつて、ヒヨドリバナには同質3倍体の異数体と異質5倍体とが見られる。また染色体数および核型の上から本属の各種はかなり異質のゲノムを混じた雑種性のものであることが想像される。

### Summary

- 1) The chromosome numbers of five species of *Eupatorium* from Hyogo prefecture are counted. *E. Lindleyanum*  $2n=20$ ; *E. japonicum*  $2n=31$ ; *E. laciniatum*  $2n=30$ ; *E. stoeccadosum*  $2n=40$ . *E. japonicum*  $5x$ .  $2n=50$ .
- 2) The karyotypes of *Eupatorium* are characterized by the increased numbers of subterminally attached chromosomes.

(p. 265 から)

37. *B. pellucida* Kuroda et Habe 1953  
ベッコウオナジマイマイ (屋久島)
38. *Bradybaena submandarina* (Pilsbry) 1890  
チャイロマイマイ (西表)
39. *B. submandarina magna* (Pilsbry) 1901  
ウスチャイロマイマイ (安房)
40. *Fruticicola* (Acusta) *despecta praetenuis* Pilsbry et Hirase 1904 オオスミウスカワマイマイ
41. *Euhadra herklotsi nesiotica* (Pilsbry) 1902  
タカチホマイマイ (西表、安房)
42. *Gulella* (Sinoennea) *iwakawa yakushimae* (Pilsbry) 1901 ヤクシマタワラガイ (西表、小杉谷、安房)

(以下 genital-system の記載は次号へつづく)